茎が弾(はじ)けた。

いまだ抜き挿しをつづける男をきゅうぅうッ♡と孔が食い締めて、内壁からも気がおかしくなりそうな快楽がうち広がる。

「あぁッ♡♡も、だめぇ……っ♡イ…イった…っ♡も…イった…！ぁ…っ♡♡んぁ…ッ♡あぁあッ♡♡♡」

男が乳首から手を離し、腰骨を掴まれ、本格的に腰を打ちつけられはじめる。

少年はプールサイドの床に上体をすがらせて、ばしゃばしゃと飛沫があがるほど烈(はげ)しい抜き挿しに耐えなくてはならなかった。

「前、触(さわ)られてもないのにイっちゃったねぇ？それにこんなにあんあん喘いで……今人が来たら、水の中で君が何されてるか、バレバレだねぇ？」

「ひぅッ♡♡」

水面から出た中央付近の背骨をべろりと舐められ、ぞくッ♡と脊髄が痺れる。

さっきまで一刻もはやく誰かに助けに来てほしかったが、快楽が深まるごとに、この痴態を誰にも見られたくないという気持ちが強くなる。

あまりの気持ちよさに口角から唾液すら伝うこの醜態を、知り合いはおろか他人にも晒したくはない。

「ん″ぅ…ッ♡ん…っ♡あぁ…！♡♡」

必死に声を殺そうとするが、奥を打たれる衝撃と行き来される快感とに、どうしてもうわずった悲鳴が漏れてしまう。どんどん媚びるような響きをはらんでいく自分の声が信じられない。

「僕は別に誰に見られようが構わないけどね。ふふ……君はどうかな？」

「お…ッ！？♡」

男は少年の腰をがっちり掴み、自らの腰を波打たせるような、意地の悪い抜き挿しを開始した。
こうされると孔奥が穿(ほじく)り返されて、奥の奥――未踏の隘路までもがこじ開けられていく。
絶頂したばかりなのに、内壁はまだ狂ったように男の雄茎から淫楽を吸い上げている。

「ぉ…ッ♡♡あ…ッ♡だめ…っ♡これだめ……ッ♡ア…♡やめっ！♡♡」

ぐりんッ♡ぐりんッ♡と奥を立て続けにほじられ、頭の奥がおかしくなるような悦楽にさらされる。